

会議録

会議の名称	令和6年度 第1回西東京市地域公共交通会議
開催日時	令和6年5月22日（水）午前10時00分から午前11時25分まで
開催場所	西東京市役所 防災・保谷保健福祉総合センター6階講座室2
出席者	【委員】古厩委員（会長：まちづくり部長）、岡村委員、関根委員、 畠山委員、町田委員、小河委員、米澤委員、佐藤委員、染谷委員（代理出席）、 滝沢委員、小山委員、犬竹委員、大林委員、下田委員
議題	西東京市地域公共交通計画の施策について （1）令和6年度の取組内容について （2）施策3 公共交通空白地域における需要と状況に応じた移動手段導入の検討
報告	なし
その他	（1）地域公共交通会議設置要綱の改正について （2）令和6年度西東京市地域公共交通会議スケジュール（予定） （3）各委員より
会議資料の名称	《配布資料》 資料1 令和6年度 地域公共交通計画に記載した施策の実施内容等について 資料2－1 令和元年度に実施した移動支援の実証実験について 資料2－2 移動支援実証実験ルート 資料3 市南部地域の移動需要調査（案）について 資料4－1 西東京市地域公共交通会議設置要綱 資料4－2 西東京市地域公共交通会議運賃協議分科会設置要領（案） 資料5 令和6年度西東京市地域公共交通会議スケジュール（予定）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開 会 ○会 長： 会議開催にあたり、西東京市地域公共交通会議設置要綱第6第2項に規定する定足数、委員の過半数を満たしていることを報告する。 議事に先立ち、会議の公開についてお諮りする。当会議は、西東京市地域公共交通会議設置要綱第7の規定により、会議録も含め、原則公開となっている。公開でよろしいか。 ～全員賛成～ ○会 長： それでは、本日の会議については公開とする。 2 議 事 協議事項 西東京市地域公共交通計画の施策について（1） ○会 長： まずは議題「（1）令和6年度の取組内容について」事務局より説明を求める。 ○事務局： 資料1の説明。	

- 会 長： 事務局からの説明について、質問、意見があれば発言願いたい。
- 委 員： はなバスの車体広告について、ラッピング等の内容や募集の条件など具体的な内容は決まっているか。
- 事務局： 具体的な内容は検討中である。
- 委 員： なるべく、いこいーなを残したラッピングにして、はなバスだとわかりやすいようにしたほうがいい。市外業者も含め広く募集するのがよい。やり方をよく検討してほしい。
施策12の市民まつりへの参加はどういった参加を検討しているのか。
- 事務局： 具体的な内容は検討中である。今まで出展していた際は、はなバス等の車両展示を行っていた。今年度は、公共交通利用促進の観点からはなバスに限らず、交通事業者様にご協力いただき内容を検討していきたい。
- 委 員： 過去にパネル展示を行っていたが、今後も行うのか。
- 事務局： 今後検討する。
- 委 員： 今までのパネル等の内容は利用促進につなげるものではなかったため、今後の内容を検討してほしい。
- 委 員： デジタル技術を活用した情報提供の充実について、スマートフォンで見られるはなバスのバスロケーションシステムと停留所のサイネージ設置は、同時に行うのか。順番に行うのか。市民の利便性を考えるとスマートフォンで見られるバスロケーションシステムのデータ作成から行うべきではないか。
- 事務局： バスロケーションシステムについては、交通事業者様の協力が必要なため、まずは停留所の位置や時刻表などの基礎的なGTFS-JPデータの整備から行う。
- 委 員： 予算の兼ね合いもあると思うが、より市民の利便性の高いバスロケーションシステムの導入をお願いしたい。
情報提供として6月1日（土）に実施される商工まつりで、タクシー車両を展示するので来ていただければと思う。
また、運転手不足については、バス事業者も含め現状把握としてヒアリングを行ってほしい。
- 会 長： 事務局は、いただいたご意見を踏まえ事業の構築をしてほしい。

協議事項 西東京市地域公共交通計画の施策について（２）

○会 長： 議題（２）「施策３ 公共交通空白地域における需要と状況に応じた移動手段導入の検討」の説明を事務局へ求める。

○事務局： 資料２－１、２－２の説明。

○会 長： 事務局からの説明について、質問、意見があれば発言願いたい。

○委 員： 資料２－１の出典と目的について、伺いたい。

○事務局： 令和２年度の勉強会で示した資料を基に作成をした。

○委 員： 資料に市の見解や実験の評価について記載がないが、今後示す予定はあるか。

○事務局： 一定の評価は示されている認識だが、今後行う予定のアンケート調査の結果とあわせた移動手段の検討の中で改めて評価し、示していくものもあると考えている。

○委 員： 地域住民のアンケート結果は出ているが、今後の問題点が明らかになっていないのではないか。

移動支援の在り方を考える勉強会は、既に解散しているのか。それとも継続しているのか。

○事務局： 勉強会については、前回の実証実験の検証まで行い一定の役目を果たした。今後については、市内公共交通ネットワークという観点からこの地域公共交通会議で議論いただきたいと考えている。

○委 員： 乗車人数からみればすばらしい結果ではなかったが、実験を行ったことは評価できる。勉強会の参加者にも今後力を借りたほうがいいのか。

○事務局： 勉強会の開催の予定はないが、環境や個人の状況の変化に配慮しつつご意見を伺えればと思う。

○委 員： 変化はあると思うので継続的に見ることが大事だと思う。勉強会の議事録では、公共交通だけでなく、地域の活性化やまちの在り方についても意見があったので今後に活かしていただきたい。実証実験について、意見の反映がされていないところも感じたので、改善していただきたい。

○委 員： 実証運行を受託した立場から３点申し上げる。

１点目は、運賃設定や買物支援の仕組みが理解されていなかったという点である。実証運行当時は、田無駅南口の整備が始まっておらず、田無庁舎が発着場所となったことで土曜日の運行がなかったことが残念だという

声や、買物の支援というイメージがある中で、なぜ田無駅の北口の商業施設の付近を発着場所にしないのか、という声があった。実験の当時は、西武柳沢駅から田無駅までの電車の運賃は150円で、西武柳沢駅ルートでの運賃150円と足して300円、他のルートで田無駅に向かう300円と変わらない、という仕組みであった。

そうした仕組みが理解されていなかったと感じる。

2点目として、前回は利用者を制限していたが、制限せずに行った際の動向を確認したかった。利用しようと思ったら、対象ではなく利用できなかった、という話も聞いた。

3点目としては、環境の変化である。実験終了後、現在までの間にこの地域の近隣に商業施設が開店した。実験当時の買物先は、田無駅周辺が多かったが、最近では変化している可能性もある。そうした変化をアンケートで把握する必要がある。

○委員： 前回の実証実験の目的と今回は異なるのではないか。

前回は、移動制約者に対する支援なので対象者を絞っている。今回は地域公共交通計画で示された公共交通空白地域に対する検討であるから、移動支援の資料を提示する意図がわからない。

○事務局： 公共交通空白地域は計画に示したとおりであるが、以前実証実験を行ったこともあるので今回も市南部地域を対象で考えている。実証実験の内容を引き継ぐのではなく、地域内補助交通という新たな位置付けの中で移動手段の導入を検討したいと考えている。

○委員： 前回の実験は、丁寧な検討をされた結果としては、1人あたり15000円という公費負担額は大きい。勉強会のような組織は、今回も開いてほしいが、前回と同じやり方では、同様の結果となる懸念がある。こうした移動手段の最終的な運行としては、一人当たりの公費負担額がタクシー料金と迎車料金の合計額（1,000円台前半）で収まるのが目標となる。一人当たりの公費負担額が数千円という自治体では、実証実験をやめており、傾斜がきついなどの特殊事情のあるエリアは除くと、同規模の自治体でこうした移動手段の実験が継続している例はない。一人ひとりの細やかなニーズを集めれば、小型車両に乗り合う需要が集まると考えてしまうが、そうしたことはない。そのため、相当な覚悟を持って実験に臨む必要がある。前回の実証実験は、勉強会でニーズが捉えられなかったと解釈するのは誤りだと考える。こうした移動手段は、相当な経費をかけなければ、便利なものと認識されないため、ニーズを集めて運行するという考え方ではなく、勉強会のような組織で、不便なりに、新しい手段の使いこなし方を考えていただく、という形がよい。これは、地域との向き合い方によるものと思う。「需要は見えないが必ず隠れてどこかにあるものである」と、やみくもに探すのではなく、最初に目標の設定をする方法もある。

○事務局： 乗りこなすという点については、地域公共交通計画でも施策に上げたモビリティマネジメントとして、並行して取り組んでいくものと捉えている。地域との向き合い方については、調査を踏まえて検討していきたい。

○会 長： 事務局に説明の続きを求める。

○事務局： 資料３の説明

○会 長： 前回の移動支援の取組の中に、今回実施しようとする実験の取組に向けた検討材料があるが、それを参考にしつつ現時点でのリサーチを行いたいという趣旨かと思う。事務局からの説明について、質問、意見があれば発言願いたい。

○委 員： 南町の地域は、新たにコンビニエンスストアが開店し、買物先が田無駅から変わっている事例もあると聞くので、地域内の変化を踏まえてアンケートで地元の需要調査をすることは大事だと思う。はなバスの財政負担も大きい中で、移動手段の導入ありきではなく、導入の必要性和、運行の持続性の面から、限られた地域の施策における１人あたりの公費負担の額も深く考えながら行ってほしい。民間路線バスでは黒字にならないと維持できない。はなバスは45％程度の収支率となっており、西東京市の人口密度や地域特性からみるとガイドラインで示す収支率を達成している。バス事業者としては、はなバスの運行で空白地域の需要を十分に満たしていると考えている。路線バスやはなバスとのバランスを踏まえて検討してほしい。

○委 員： コロナが収束し、対象地域の住民は、実証実験の始動を待っていると思うので、意味のあるアクションをしてほしい。そのアクションがアンケート調査であるということであればよいと思う。移動手段の導入ありきのアンケート調査では困るが、移動手段を導入して一定の成果のあるモデルを作ることも大事だと考える。そのためには、移動手段のターゲットを設定できるようなアンケートがよいのではないかと考える。その場合は、いわゆる紙の無作為抽出のアンケートではなく、対象者がわかっているようなアンケートにするとか、地域で５人くらいを集めたミーティングのようなものを複数回実施して話を伺うなどもよい。

○委 員： 利用者の費用負担については、できれば安い方がいいとなってしまうと思うので市の指標に対して、どれくらいならできるかを聞く方が実態に即しているのではないか。

○委 員： 住民が現在の生活習慣に合わせた移動手段を変更するには、新しい移動手段が入ってから３ヶ月から半年かかると聞いたことがある。前回の実験は３ヶ月で終了したため、行動が変わる前に終わってしまった。今の移動手段の代替手段になり得るのかという観点も良いではないか。

○委 員： 公共交通空白地域は、市域全体に点在しているので今回の調査対象が市南部になっている理由を説明したほうがよい。

○委員： アンケートのやり方にもよるが、移動手段を利用するかどうかという設問は、こちらは直接知りたいことではあるが、答える側は移動手段のイメージがないので適当に回答してしまう、ということが起こる。そのため、利用するかしないかの手前の部分をしっかり聞くか、想定される移動手段をいくつか提示し、そうした移動手段があったときに、これを使うなら生活習慣を変える余地はどの程度あるのか、というような設問を設けると、需要が見えるかもしれない。回答者に、需要を自分で考えさせる、または考えるきっかけとなるアンケートという形もあるので検討してほしい。

○会長： 公共交通空白地域にどのような対応ができるのかを検証していくということは、今回策定した地域公共交通計画の本筋にある。前回の実証実験のあと、検討が止まっている南部地域から進めていきたい。前回の実証実験では、公共交通を利用したいというご意見が根幹にあった。事務局は、前回の実証実験と異なるコンセプトの部分について、アンケート調査で市民意向を確認できるよう、前回の実験の結果も踏まえながら、アンケート調査の設計をされたい。

その他 (1) 地域公共交通会議設置要綱の改正について

○会長： その他事項「(1) 地域公共交通会議設置要綱の改正について」の説明を事務局へ求める。

○事務局： 資料4-1、4-2の説明。

○会長： 事務局からの説明について、質問、意見があれば発言願いたい。

～特になし～

その他 (2) 令和6年度西東京市地域公共交通会議スケジュール (予定)

○会長： その他事項「令和6年度西東京市地域公共交通会議スケジュール (予定)」の説明を事務局へ求める。

○事務局： 資料5の説明。

その他 (3) 各委員より

○会長： 委員の皆様からのこの場で伝えたいことがあれば発言願いたい。

○委員： バス運転手の担い手不足について、当社においても影響があり、路線バスのダイヤ変更を行った。はなバスにおいても今後意見交換等をして運行継続にご協力いただければと思う。

○委員： 当社も同様の状態であるので、ご協力を願う。

○委員： 東京バス協会では、各地域のバスを利用した観光の案内パンフレットを作成している。イベント等で活用いただきたい。バス事業者には、モデルコースの提供をお願いしたい。

○会 長： 今後、新たな取組を実施していく中で、運転士の担い手不足については、心配りが必要と考える。一方、この会議で策定した計画に記載した、市内の移動利便性の確保については、委員の思いの結実であるから、持続性とのバランスを考えながら取り組んでいきたい。

○会 長： 以上をもって令和6年度 第1回西東京市地域公共交通会議を閉会する。

以上